



## 5 森寛斎

### 《古柏猴鹿之図》

一幅

明治十三年（一八八〇）

絹本着色

二三・二・四×一四三・二・二

京都府 第三区第三類

妙技三等賞

森寛斎（一八一四～九四）は、京都で森徹山の弟子となり、明治以降は塩川文鱗が創立した如雲社を

まとめるなど京都画壇の中心的存在として活躍した画家である。寛斎の内国博への出品は第二回に限られるが、その出品作「松鹿猿（深林猴鹿図）」では妙技三等を受賞した。本図は、深林（画題の柏とは中国におけるヒノキ科の柏種の呼称）の中で戯れる鹿と猿それぞれの親子が描かれている。この取り合わせは「百禄封侯」という、中国から伝わる伝統的な吉祥の画題である。明治十四年に元老院議員河瀬真孝より皇室へと献上されたという他は詳しい伝

来が判明していないが、作画内容がこの出品作の画題および審査評（「経営布置宜ニ適シ深林幽邃ノ趣ヲ尽セリ但墨気淡ニ過ルニ似タリ大幅ヲ作ル筆墨アルヲ要ス其妙技嘉賞ス可シ」「明治十四年第二回内国勸業博覧会審査評語 下」と一致することをはじめ、画中の款記（明治十三年十二月）や作品サイズなどから内国博出品作そのものである可能性が高く、そうでなくともそれと同工異曲の作品であることは間違いない。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

内国勸業博覧会 ― 明治美術の幕開け

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 57

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十四年四月二十一日発行

© 2012, The Museum of the Imperial Collections